

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500206		
法人名	株式会社ユニマツトそよ風		
事業所名	さいき長寿苑そよ風		
所在地	大分県佐伯市鶴岡西町二丁目269番地		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果市町村受理日	令和2年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=4490500206-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 第三者評価機構
所在地	大分市大字羽屋21番1の212 チュリス古国府壺番館 1F
訪問調査日	令和2年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・さいき長寿苑そよ風グループホームでは季節に合わせたイベント、おやつ作り、外出レクに力を入れて取り組んでいます。お客様と一緒に近隣のスーパーに出かけ食材や日用品など購入し気分転換を図る事もあり施設内でもお客様の特技とする手芸や書道や大正琴などのレクを企画し「お客様を退屈さない」ように日々職員一同取り組んでいます。また、近隣には西田病院(協力医療機関)もあり緊急時も速やかに病院受診に行くも出来、お客様、ご家族様に対し安心で過ごせるようになっています。

佐伯市中心部に、有料老人ホーム・通所介護等と併設した2ユニットのグループホームです。個々の利用者に対する最適な支援の追求と、ともに暮らす支援者として心を開いてもらえる接し方を共有して支援に取り組んでおり、職員の目配り・気配りが利用者の穏やかな表情に表れ、家族の安心と信頼に繋がっています。管理者・職員は毎月のモニタリング、毎日の支援目標を振り返る中で、認知症の進行具合によって変化する対応方法を考慮した素早い対応が評価されています。法人は全国展開の施設であり組織体制やノウハウを運営(情報共有や事業所間の連携等)に活かすことにより、より良いサービスの質の向上に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域、家族笑顔で支えあう」を理念に対しご家族様に協力を得ながら支援している。外泊、外出、近隣のスーパーに買い物等時間を作っていたいて関係者の方々と支援に繋げている。	事業所が地域密着型サービスとして何をすべきかを理念から解釈し実践しています。事務室等職員の目に付く場所に掲示し共有を図るとともに、毎月の会議や年度末等に、利用者個々の支援に理念が実践されているか振り返っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節に応じ買い物の時間を作り近隣のスーパー等に行き買い物に行っている。また、他部署の企画ではありますが校区内である小学校の1、2年生が施設に來られ折り紙やちぎり絵など通し交流を図っている。	自治会に加入し、地域との情報交換を行っています。隣接する病院・公園・商業施設等に出かけた折に地域の方々と話したり、小学生との交流、実習生やボランティアの受け入れ等、地域との関係を築いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営委員会会議を通して認知症の初期症状や中核症状について説明をしている。運営推進委員のメンバーには当施設内の各サービスを見学する時間も設けた。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではグループホームの活動状況を説明し評価を受け、参加者の意見を基に改善に努めている。会議の内容人については記録に取りまとめ、全職員に回覧、共通認識をもってもらうよう周知している。	会議では行政・地域・家族・事業所のそれぞれの代表メンバーで構成され、2ヶ月に一度開催されています。事業所の近況報告の後、アドバイスや伝達(地域の情報)が行われています。また、法人の他事業所の意見も参考にサービスの向上に活かされています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者へは運営推進会議だけでなく、認定更新の機会、又はより良いサービスのあり方を模索するうえで疑問点を相談し、実直に対応してもらっている。また、問い合わせ結果は記録に残している。	運営推進会議の繋がりもあることから、市担当者とは普段から話しやすい関係が築かれています。必要な書類提出だけでなく、事業所の運営状況や課題解決に向けた相談等に取り組む、協力関係を築いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の身体拘束会議を開催している。職員は身体拘束によって利用者に与える身体的精神的苦痛を理解し、拘束のないケアを実践するよう取り組んでいる。	年2回全体会議にて研修を行い、毎月の定例会議でも常に話題に上げ、身体拘束廃止、虐待防止に対する内容及びその弊害を認識し拘束のないケアの実践に取り組んでいます。虐待に関しては、事例と対策を話し合い、ケアの質向上に繋げています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常から職員の気持ち体調の変化を見逃さず何か様子が違えば話を傾聴し助言をしている。特に言葉の虐待などに注意しながら日々業務に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護についての研修会、成年後見について対応が必要なケースについては、随時職員に説明、アドバイスをしながら利用者の支援を行っているが、職員全体が「理解できているとは言えず、万全な体制とは言えない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事業所の取り組み等について詳しく説明している。介護報酬の改定や制度改正などにより、利用料に変化が生じる場合は、書面での一方的な通達にならない様、ご家族と面談し了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会の際に利用者の状態を伝えながら、意向について問いかけ、何でも言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。出された内容は職員全体に周知しケアに反映させている。	職員は利用者・家族に寄り添い話を聞くほか、コミュニケーションを大切に信頼関係を構築しています。面会時・電話・便りの送付・運営推進会議等で家族が思いや意見を遠慮なく出せるよう配慮し、出された意見は運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を通しいろんな意見が飛び交う時間が月に1回程ある。管理者、計画作成者も実際に現場に入り今ある悩みなど職員と一緒に考える時間もある。	管理者は日々のケアの中で職員とのコミュニケーションを図り、風通しのよい関係性を構築しています。休暇取得や夜勤等は協力し合い、職員の働きやすい環境を工夫しており、更に年2回の個別面談・アンケート・ストレスチェック等で職員のモチベーションの維持向上に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	九州事業で開催される研修に参加しキャリアアップに努めている。参加した職員が現場に持ち帰り全職員に共有している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員に対し入社時に研修を開き虐待防止、身体拘束防止などの勉強会を開いている。他職員には全体会議で勉強会を開催しキャリアアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	九州事業部の社員が月7日間ほど現場に入り他施設の情報など聞き助言を頂き、入居者に対しよりよいサービスに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に必ず本人と面談し、心身の状態や本人の思いに耳を傾けながら、今何を求め、何を大切にしているか知ろうと努力し、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の思いの違いも含めて、ご家族の苦労や、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。課題を把握することで安心してもらい、次の段階の相談に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な方には、可能な限り柔軟な対応を行い、必要に応じて他のサービスの調整を行う等工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と関わるなかで、一緒に生活を作るという視点をもつように心掛けている。人とかかわりの中で、役割を認識して暮らせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は本人の日頃の様子をこまめに報告・相談しながら家族との良好な関係が築けている。日常生活のなかで役割を持ってもらいながら自立支援に向けた取り組みを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から利用していな美容院へ行ったり、友人に会ったりする機会をもつことで、本人が大切にしていた関係が途切れないよう、支援に努めている。	アセスメント・家族の情報・生活歴等で馴染みの関係を把握し、その重要性を職員は理解し支援しています。趣味仲間の面会・馴染みの店での買い物・美容院・家族の協力で外出等、その中で利用者にとって一番大事なことは家族・親類との関係継続であり、その思いを大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が入居者の間に入り会話の橋渡しをしている。入居者1人1人に役割を決め皆様に生活できるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方に対し、季節の挨拶状を送付するなどしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の生活歴や趣味、特技を全職員が把握し本人様に対し寄り添ったケアに努めている。	利用者に寄り添い、多くの会話を交わす中で、思いや意向の把握に努め、困難な方には、表情・行動・身振り・笑顔等により推察し、気付いた情報は記録に残し職員で共有しケアプランにも反映しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様、家族様からの情報を元にし生活歴、暮らし方等把握し日頃のケアに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	高齢者が多い中、1日1日の体調の変化など大きく変わる事から申し送りの徹底を図っている。申し送りノートを活用し全職員で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月の更新において職員は個々に書面にて利用者の状況報告を実施。日々のサービス実施状況についてはPC管理し、現状に即した介護計画作成に反映させている。	ケアプランには本人本位を意識した援助計画をまとめ、具体的な支援の短期目標及びサービス内容が詳細に記載されています。6ヶ月毎の見直しについては、担当者会議において職員に利用者個々の状況確認の書面を提出し、家族の意見を参考にプランに反映しており、職員間の共有に努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活を送るうえでの阻害要因や、課題など把握しながら全職員で共有している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様を一番に考え、ご家族に協力をもらいなが入浴介助や病院受診を行っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は幼稚園生等の交流はありましたが最近では交流出来ていないのが現状です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の変更について入居時に本人様、家族の思いを尊重している。協力医療機関とは定期受診等通い連携を図っている。	利用者の希望するかかりつけ医となっています。隣接する救急病院を主治医とされている方も多く、定期受診等で連携体制を整えられています。他の専門医受診は家族の協力もいただきながら支援され、様々な医療機関との連携も整えられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護職員の配置はなく訪問看護もない状態ですが施設内に勤務する看護職員と連携を図り、簡単な処置など行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	佐伯市内の病院に入院した際はできるだけ毎日面会に行き、本人の様子、洗濯物の持ち帰りなど行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様や家族の意向を第一に考慮しできる限りの支援に努めている。今まで看取りの経験を反省点等が見つかり次回に繋げたいと考えている。	入所時に施設として出来ることの説明を行っています。実際に必要になってきた時には、医療・家族・施設と話し合いを持ちながら本人や家族の意向も踏まえ施設として出来る限りの支援に取り組まれています。研修も定期的に重ね、看取りの経験を生かしながらより良い支援に繋がっています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所内にマニュアルを掲示し全職員で共有出来ている。単独で判断せず専門職に説明し受診等の指示をしっかりと頂くようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自然災害、火災などいろんな状況を想定し3ヶ月に1回避難訓練を行っている。最近では緊張感もあり全職員で行っている。	定期的に毎回違う想定で避難訓練を行っています。備品等は施設全体で管理されています。訓練は主に施設全体と、年に1回消防署の方の協力を得て行っていますが、これからは地域の方の参加も視野に入れ訓練の予定を検討されています。	地域の方も参加された訓練を通し、更なる地域との協力体制を築いていけることを希望します。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員で勉強会を通してその人らしさを尊厳ある姿を大切にするように支援している。また、接遇の研修を含め気持ちに寄り添ってケアを行っている。	定期的に研修を行い、全職員で常に利用者一人ひとりの誇りを尊重し意識の徹底を心がけています。声掛け等で気になる対応があった時は、その都度接遇のあり方を確認し合う体制が整えられています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給の時間の際にいろんな飲み物を選択できるように声掛けを行っている。また、本人の好んだ洋服を自ら決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や入浴の拒否が多い方に対し家族様の協力を得ながらその方のペースで支援が来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近隣の理容室の方が来られ理美容を行っている。カットだけではなくカラーも行い本人らしくお洒落ができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	作る、食べる、片づけを入居者と行っている。一人一人に役割があり皆さんで協力しながら生活している。	利用者の出来ることは、準備や片付けなど職員と一緒にされています。日常会話などから嗜好や希望をくみとり、イベント食やおやつ等で演出にも工夫され、食事を楽しめるよう様々な取り組みをされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取、水分をしっかり記録している。入居者に合わせ食事形態も考慮し食事前には口腔体操を行い嚥下機能が落ちない様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	誤嚥性肺炎の予防の為、一人一人に合った用具を使用し自分でブラッシングができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人排泄のパターンを全職員が把握ができている。出来るだけトイレで排尿ができるように努力している。	排泄チェック表は、タブレットで情報の管理が徹底され全職員が様々な情報を常に共有し、処遇に生かせる体制が整えられています。自立の利用者の方も多くそれぞれに合わせた配慮を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	軽体操、水分補給などしっかりしている。記録の元医師の指示により坐薬等挿入しは便秘しないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自分のペースで入浴できるように声掛けから気をつけている。拒否する方には入浴剤など使用しながら対応している。	利用者の体調や気分を大切にしながら、着替えの準備を職員と一緒にしたり、気の合う人同士と一緒に入浴を楽しんでもらったり、家族の協力を得ることもあり、個々に添った支援を工夫されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠して頂くように日中にレク等行っている。居室内の温度調整にも気を配りながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人、入居者に手渡しし飲み残しや誤薬に繋がらない様にしている。拒薬する方は近隣の薬局にも相談し対応法の指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人役割があり一つ家族になっている。入居者ができないよう事は職員が入り一緒に行うこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望のある方や不穏行動がある方に対し、場所や環境を変え対応することもある。家族にみ協力をもらいながらケアすることもある。	季節ごとにドライブに出かけたり、近隣の公園や商業施設など散歩に適した環境に恵まれており、利用者の体調や気分に合わせて日常的に外出できる体制を整えられています。家族の協力を得て外出や外泊などの支援体制も整えられ、利用者へ添った支援に努められています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方は現在いませんが立替金制度を使用している。家族様に了解をもらい日用品など必要なものがあれば一緒に買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	時折、遠方の方より電話があった際は本人様と電話を変わり会話をすることもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温管理を徹底している。冬には加湿器を使用しインフルエンザ予防に努めている。	利用者は共用空間で過ごされることが多いため、居心地よく過ごしていただけるよう温湿管理はもちろん安全・安心して過ごしていただけるよう、感染予防対策や体調等を常に観察され支援につながっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに季節に合わせ飾りつけを行い季節感を出している。その飾りつけも入居者と一緒に作り達成感を味わうこともできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使い慣れた物を持ち込むできるようにしている。量の使用を希望する方には量の準備もできるようにしている。	利用者が居心地よく過ごせるよう、本人や家族の協力を得ながら工夫された居室づくりに取り組まれています。安全・安心に配慮され、温湿管理や体調の変化にもすぐに対応される体制が整えられています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレに表札や印になるようなものを置いている。歩行状態が困難な方にはポータブルトイレを設置するなど事故にならないように気をつけている。		